

わたしの写生地

スペインの大地とパラドール

神奈川 佐藤 祐治

スペインでのわたしの行動は空港でレンタカーを借りるところからはじまる。

出発し最初に寄る所はスーパーマーケット。ここでスケッチに必要な折りたたみの椅子や敷物、そして飲み水、果物などをかう。運転するに国際免許が必要となるがこれは日本で簡単に取得できる。車は空港で借り、空港で返すようにしている。大きな街は車も多く、一方通行など、やはり戸惑うことが多いので出来るだけ入らないようにしている。空港は郊外にあり主要道路につながっているのですがそのまますぐに目的地に向かって行くことが出来る。

道路はとにかく素晴らしい。高速道路が縦横無尽に走っており、標識もはっきりし、目的地の到着時刻などは地図に載っている距離などを見て時間を計算できる。ただし、途中での風景に見とれ、又、スケッチなどを始めるといつの間にか時間がたってしまう。然し夏は日没がおそく、九時近くになってもまだ明るく、絵をかくには時間がたっぷりあるように思える。地元のレストランは十時過ぎないと開かず、夕食はその後になる。

スケッチの場所は日本ではいろいろ調べたり、又前回行った時に資料として買ってきた本や、観光案内所からもらってきたパンフレットなどでおおよその見当をつけておくが、地形と地図を見比べ、新しいコースを決める。このごろはゆっく

りと体を休めるためと、遅くなくても大丈夫なように、日本からホテルを予約しておくことが多い。このところは、パラドールを宿泊場所と決めている。これについては後で説明するが、ここ数年、取材は「テルエル」のパラドールを中心として動くことが多い。今回は私が惹かれる町、テルエルを中心とした写生地をいくつかあげてみよう。

アラゴン地方を写生する

緑豊かな渓谷や、荒涼とした山々、乾いた大地が広がるメセタ地帯がひろがるアラゴン地方はその自然も含め、歴史的にも興味ある建物が多い魅力的な地方である。その中でもムデハル様式の塔が印象的なテルエルは街としても、見るどころが多いがその周辺には思わず筆を取りたくなる村々が点在する。ただ、交通の便としてはやはり車が便利。バスや、タクシーを上手く利用したい。

○ アルバラシン

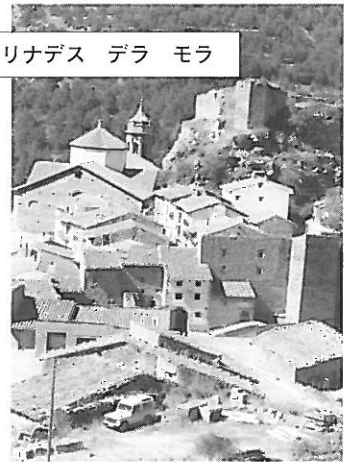
テルエルの西4.5キロ。十世紀にモロ人によって築かれた古城に囲まれた街。旧市街は石畳の道にせり出すように家々が建ち並び、街に添って流れる川の対岸からの眺め、城からの街など写生する場所が多い。

○ リナデス デラ モラ

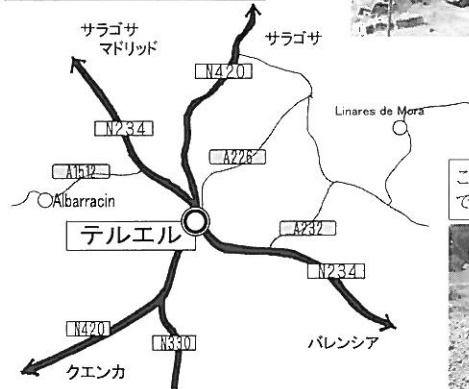
テルエルから少し離れているがここに行くまでの村や町、そしてそこからさらに山に上がるといつい車止めたくなる場所が次々と現れる。リナデスは小さな古城をそとと隠すように赤い屋根の石作りの家々が連なる小さな村の一つである。



アルバラシン



リナデス デラ モラ



パラドールのこと

スペインを訪れたら一度は泊まっていたいの、パラドールだ。パラドールとはスペイン独自の国営ホテルで、三つ星まである高級ホテルである。然し、同じランクのホテルに比べて、国営ホテルということもあるのか、宿泊費は多少安い値段に設定されているように思える。古城や、教会等歴史的な建造物を修復して活用しているため、パラドール自体も絵になる建物として魅力的である。外観もそうだが、インテリアもその時代のもを上手く活用してあり、一歩中に入ると中世の世界に入り込んだ気分を味あ

こんな格好で写生中。暑い
です。なんとこの日は43度



うことが出来る。パラドールのある街自体も写生地としてはまずことが出来ない。パラドールを含め街全体が史跡として保存されているところもあり、雰囲気のある街角のどこを切り取ってもそのまま絵になるような気がする。

私が泊まったパラドールのいくつかを紹介してみよう。

・トレド

スペインを訪れる人のほとんどが一度は足を運ぶのがここ、トレドの街。マドリッドからも電車バスが出ており簡単にいける。タホ河に囲まれた古都をエル・グレコの「トレド風景」とそっくりな景観がパラドールの正面に広がる。ここに泊まるなら、街全体が見渡せるバルコニーのある部屋を確保すると良い。



・オロベサ

天正の少年使節が足を止めたというオロベサはトレド県にあり、マドリッドから電車で約2時間。丘の上に聳え立つ城塞がそれである。パラドールの高い塔からは屋根瓦の美しい旧市外の街並みが眼下に広がる、又金色に輝く穀倉地帯が続く景観は飽きることない。

・シグエンサ

マドリッドから北東約125キロ、電車で約90分。のんびりとカステージャの台地を眺めていると、ひときわ大きく丘の上に立つ城が見えてくる。駅からは、絵になりそうな街角を見ながら約15分くらい歩くと、狭い坂道を上がると急に視界が開け、そこにどっしりとした石造りの城門にたどり着く。パラドールからの街並み、又その周辺の景観も良いが、さまざまな花の咲く中庭も素晴らしい。ここでこの宿泊は中庭を眺めるペランダのある部屋にしよう。

・ロンダ

よく絵で見ることが多い、約200年昔に立てられたという高さ100メートルの橋の袂に位置するのが、ロンダのパラドールである。この街も見所が多く、最古の闘牛場などもある。ここにはコスタ・デル・ソルのマルベージャ方面からのバスが多く出ている。どの部屋からも、素晴らしい景観が見られ期待を裏切ることはない。

・アルコス・デ・ラ・フロンテーラ

ロンダと同じく、アンダルシア地方に位置するこのパラドールは西から東にかけて抉り取ったような狭い崖の上へはばりつくように立てられた白い街の続く頂上にある。切立った崖に突き出るように立てられたパラドールからはアンダルシアの広野が地平線まで続く様子を眺められる。高所恐怖症の人はすぐ下を見ないほうが良い。この街を囲むように蛇行する河が足元はるか下にある。史跡となっている街も見所、描きどころである景観が期待できる。南向きのペランダのある部屋が少ないので混む季節は予約がほ

しい。

・グラナダ

アンダルシア地方で最も有名なパラドールと言ってよい。アランプラ宮殿の中にある。1526年、カルロス5世の結婚を期に建てられたルネッサンス様式の代表作となるカルロス宮殿の中庭に位置している。部屋からは場所によって見られるものが違うが、アランプラ宮殿、ヘネラリーフェの庭、そしてアルバイシが望まれる。然しここは糸杉などが配置され、水の流れる中庭を散策するのが一番か。これも部屋数が少ないため、早めの予約が必要となる。時期が外れれば当日でも宿泊できるが。

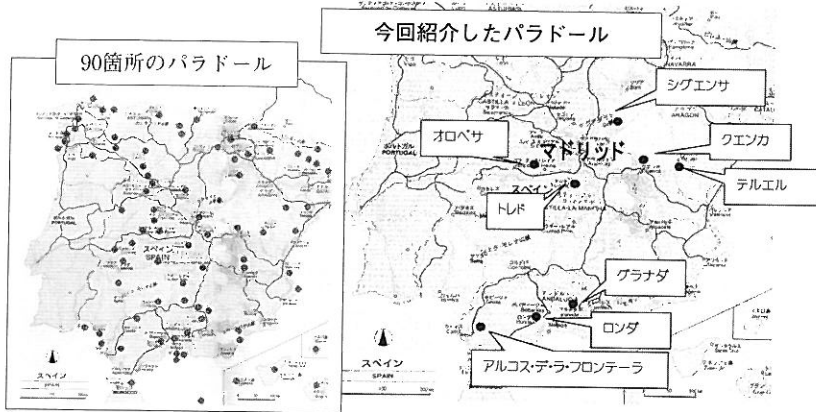
・クエンカ

16世紀ゴシック様式の修道院を復元したもので、当時の面影を恐はせる。有名な「宙吊りの家」、そしてウエルカ河にかかるつり橋は正面にある。深い峡谷に囲まれた大地にパラドールを見下ろすかのように旧市街が広がる。この旧市街を程よく眺める対岸の丘も写生地としてはせない。

・テルエル

雨が少なく、気温の差が激しい卓上台地、メセタの中心となるアラゴン地方を代表するパラドール。街は起伏にとび深い谷、そして街と町を結ぶ石橋、ムデハル様式の鐘楼など見所が多い。パラドールの場所は町から少し離れた森の中にある。快適なホテルライフで疲れを癒しながら、ここを起点にアラゴン地方を車で回るのが良いか。

今回紹介したパラドール



パラドールの予約は直接現地に電話などで申し込んでも良いが、宿泊を取り扱う代理店などいくつか日本にあり、インターネットなどで簡単に見つけることができる。